

Introduction

フランク・ヒューエットという名で日本でも知られるクムフラ、エンターテイナー、シンガー、ソングライター、本名カワイカプオカラニ・ヒューエット。彼が現代フラの世界の最重要人物のひとりであることは、今さら僕が言うまでもなく、多くの人の認めるところだ。

フラ、ハワイ文化の伝統に関する広く深い知識と、それを表現するアーティストとしてのカリスマ性、さらに多くのフラ・ソングの名曲を生み出す類稀な才能を持ったクムフラ、ヒューエット氏について、いずれ日本でも一冊の本が出版されるだろうと、漠然と考えていた。今回、この写真集が制作されるにあたり、テキストを担当させていただけたのは、大変光栄なことである。彼が残した多くの素晴らしいものの、ほんの一部でもここに紹介することができていれば幸いである。

本文は、約半年の間に行われた多くのインタビュー・セッションで彼が語ったことを、彼自身の言葉で再編した。とてもスピリチュアルなヒューエット氏の口からは「神」という言葉が何度も発せられた。ハワイの神、フラの神のことだ。おそらく一般の日本人の私たちが使う「神」とは、同じ言葉でもその意味、距離感みたいなものはずいぶん違っているはずだ。だから彼の言う「神」の受け止め方、感じ方もいろいろだろう。ひとつだけ、僕にも確信が持てることがある。それは、僕が大好きな、見るも美しい踊り「フラ」が、何世紀にも渡って踊られてきたハワイの人たちの踊りだということ。そしてその踊りは、あの島々の海や山や花々や風を踊っているということ。ハワイの海や森の中で、火口のそばで、ふと感じる不思議な感覚、風に吹かれるだけで全身が浄化されるような感覚、あれはどう説明したらいいのだろう。フラ、ハワイ文化、ハワイアンの価値感を支える、ハワイの自然が持つ神秘的なパワー、あるいはエネルギーが、「スピリット」や「神」という言葉と同義語だと考えると、凡人の僕は理解がしやすい。

凡人の僕とは違う意識世界で生きるヒューエット氏は、本文でも語っている通り、生みの苦しみというものをはほとんど体験することなく、フラ・ソングの名曲を次々に生み出す。彼の携帯電話(確か日本で使う日本製のもの)に、まだ世に出ていない何十もの歌たちが保存されているのを僕は見せてもらったことがある。昨年、八丈島での仕事と一緒にいたときには、彼が島に到着して数日後島を去るまでに、八丈島を歌った美しい歌が生まれ、フラが生まれ、島の人たちに伝えられる、という、何とも信じられないようなことが起こるのを目の当たりにした。

「フラ・ピープル」という言葉もヒューエット氏がよく使う言葉だ。その響きがとても好きだ。非常に特別な存在であるハワイのフラ・ピープルのひとり、ヒューエット氏に、日本人である僕たち(筆者、写真家クニ・ナカイ、デザイナー矢田実)を信頼しこの写真集の制作に携わらせてくださったことを感謝したい。

最後に、日本のすべてのフラ・ピープルに、フラの女神が微笑むことを願って。

ALOHA、

マノアにて。

Daisuke Yoshimi